

美しが丘のまちと子どもの成長

校長 畠山 真

新しい年になったと思ったら、すでに1か月が過ぎ去ろうとしています。

学校の門の横にある、紅梅、白梅が可憐に咲き始めました。今年は、白梅の方が早く咲き、紅梅が咲き始めるのを促しているように思えます。梅が咲き始めると、今年も春が来たのだなと思い、一年の月日のめぐりに驚かされます。

先週まで書き初め展があり、廊下に子どもたちの書いた書写の作品が飾ってありました。子どもたちは、一生懸命に書きどの作品も堂々としていたと思います。今年は、体育館が工事中で体育館での書き初めはできず、美小ルームや教室での書き初めになり少々窮屈な感じで書いたと思いますが、書かれた字は伸び伸びと堂々としていて立派な字でした。新しい体育館もまもなく完成し、来年は新装になった体育館でさらに大きく堂々と書かれていくことでしょう。

さて、美しが丘のまちは子どもたちの成長を育むうえで、とても環境のよいまちだと思います。森が多く大きな木で囲まれ、美しが丘公園を通るたびに何かほっとさせるものがあります。公園のヒマラヤ杉は、12月からツインでイルミネーションが輝き、通る人々の目を和ませてくれています。商店街の方々を中心に少しでも美しが丘に住んでいる人たちを楽しませ、心を癒してあげようと毎年飾っているとのこと。連合自治会の方々は、一年を通して様々な行事を計画し、住民に楽しんでもらおうと工夫しています。春には桜祭りがあり、夏には盆踊り大会があります。特に夏祭りは、地方や海外に行かれた人たちも帰ってきて旧交を温め、参加していると聞きました。私も毎年行っていますが、二日間に渡って非常に盛り上がり、地域の人たちはとても楽しみにしています。

子どもたちもたくさん参加し、毎年中学年がやぐらの周りで踊りを披露しています。本校の保護者の方々も昨年、一昨年と50周年のために一生懸命に働き売り上げに協力していただき、頭が下がりました。こうして身を粉にして働いていただいた資金が50周年の記念誌や記念資料集等に生かされているのだと思いました。

いずれにしても地域の方々が、子どもたちの健やかな成長と将来への夢と希望を実現させるために礎を作ってくれているのだと思います。本校は、今年度で50周年を迎えましたが、地域の方々が美小の子どもたちをまちぐるみで育てていこうとする背景があり、お陰様で美小が50周年という半世紀を迎え、大きな節目の年になったと思います。美しが丘のまちとともに歩んできた美小の子どもたちは、地域の方々が声をかけてくれたり、支えてくれたりしたことで大きく成長してきていると思います。

学校と家庭、地域の三者で子どもたちを育てることがいかに大切なことなのか、美しが丘のまちと子どもはそれを物語っていると思います。

美小は、これからもまちとともに歩んでいきます。